

モスクワとレーニングラー ドの道路名称の由来 (抄訳)

「モスクワ市内の道路名称」

パコバ編 モスコフスキー・ラボーチ出版 1975

「レーニングツードの道路名称の由来」

ゴルバチビッチ・ハプロ著 レーニザート出版 1975

1. モスクワの性格

モスクワはソ連邦の首都であるとともに英雄都市である。モスクワは800年以上も昔、ロシア古代史にあらわれたわが国最古の都市の一つである。モスクワは国の心臓部であり、またレンズの焦点のようにすべての優れたもの、最も先取的なものを集めてきた。古来からこの特性はモスクワに固有なものであった。百年ほど前のロシアの偉大な批評家であり民主主義者のペリンスキーは、「モスクワは、その中にオックスフォード、マンチェスター、レイムスのもつ三様の理念を併せもっている」と述べた。このことは、モスクワが重要な文化の中心地であり、ロシア国家の経済生活を支え、かつ古い歴史をもっているということを示しているものである。

社会主義10月大革命勝利のあと、モスクワのもつ価値ははるかに大きなものとなった。モスクワが社会主義革命の旗手であるということは、その歴史的伝統の厚さと革命運動でのモスクワの重要な役割によって確固たるものとなった。今日のモスクワは共産主義建設者の闘争本部になっている。平和を守る世界運動の中心地モスクワには全世界の進歩的な人々の愛と期待がよせられている。今日、モスクワは重工業の中心地であると同時に、ソ連邦の先駆的産業上の実験室でもある。さらには、国家の科学的、文化的生活上、重要な役割を負っている。ソ連邦科学アカデミー、産業別教育アカデミー、10余の科学研究所などがあるほか、80以上の専門学校には50万人以上の学生が学んでいる。またモスクワの演劇と音楽の諸団体は世界的に有名である。さらに、その博物館と文化宮殿でも有名である。

ソビエト政権後モスクワは、人口規模(700万人以上)とその面積(875km²)で世界の大都市の一つとなっ

た。現在の市域内には延長にして3,000km、数で5,000以上の大通り、街路、小路、通路及び広場がある。歴史のある都市モスクワには、物質文化の記念物、建物の形態と特徴だけでなく、道路配置計画の中にさえも過去の証拠物件を数多くかかえている。拡大するモスクワを外壁と障壁で同心円的に囲んだ都市設計には特に注目すべきものがある。これらの事情のほか、大都市としての数多くの特殊事情が、歴史的遺物の外形に影響を及ぼしているばかりでなく、モスクワの街路、小路、広場の名称となって残っている。道路の名称は、その中に幾多の都市生活そのものをふくんでいる。巧まずして、歴史が数多く残っているといえる。これらのことが、われわれの街路と広場の名称が幾世紀にもわたる都市成長の天然記念物であり、社会的な注目と研究する価値あるものとなるゆえんである。

2. モスクワの道路名称

道路名称を認識する価値は、その中にモスクワとか、我国の重要な歴史的事件が反映していることから明日である。オルジャンカ、ドンスカー通りなどは、侵略者からロシアの独立と自決を守って闘った祖先の受難と勝利を思いおこさせる。ドミトロフスキー街道、スモレンスカヤ通りなどは、モスクワと交易で緊密に結びついた古代ロシアの都市にちなんで名称であり、またロシア国土の統一時代を物語っているものである。タガンスカヤ広場、ブロンナヤその他は、昔の手工業の村の名称である。これらは、古代モスクワの経済生活とかロシア国家の経済の中心地としてモスクワが変化してゆく様を証明しているものである。ピョートル大帝の改革時代はレフオルトプスキー、セメノプスキー通りなどの名称に刻まれている。

都市の急激な発展にあわせて、必然的に改造が繰返された。多くの場合、古い建物がこわれ、それにまつわる名称がしばしば消えた。しかし、大部分は無事残っている。今日、それは、昔の建造物、修道院、市場、倉庫などが存在したことを示す証拠品ともなっている。古代モスクワの名も知られる勤労者を思い出させる名称はとくに貴重である。無名は都市建設者の記念物として、ポリショイ・マルイ・カメンシキーのような道路名が保存されている。幾世紀をすぎても昔の芳香を放つ典型的な古代モスクワ方言をもった道路名称もある。また、モスクワの言葉にとけこんでいる外来名称——アルパー

ト、バルチョーク通りなどがある。モスクワをかこんでいる自然、丘、森、原野なども道路名称に影響を及ぼしている。ラブルシンスキという小路がある。しかし時間がたっているため、ラブルシンナーという人がどういふ人物であったかは分らなくなっている。だが、世界的称賛の的となっているトレチャコフ美術館のある場所として有名になっていることの方が重要である。この場所に、多くの大作家が住むようになった頃から、ラブルシンスキーという住所が有名になった。例えば、プリシュビーネ、セリピンスキーなどの回想録の中で「ラブルシンスキーで逢った」とか「ラブルシンスキーでかいた」とかいう文が散見される。このように、古い名称はその最初の意味とは直接関係のない歴史・文化的意味をもつにいたる。祖国の独立の戦、過去のロシア人の戦いでの勇敢さなどは道路名称の中に不巧に刻まれている。モスクワ西部の全域では1812年の祖国戦争での事件にちなんだ名称がつけられている。また、きわめて多くの道路名称が、新しい時代の事件を反映している。革命運動の歴史、ソビエト政権の勝利、主義思想の勝利、社会主義・共産主義建設と世界平和への勝利などがそれである。

我々の古い都市モスクワは同時に若い都市でもある。その面積の4は革命後編入されたものである。若い共産主義建設者に注目した名称は、青年通り、若者通り、青年レーニン主義者通りなどの名称となってあらわれている。5カ年計画の歩み、社会主義建設の重大な諸段階などは発電所通り、採掘機通り、コルネーズ広場などの名称に反映している。その他多くの道路名称は、モスクワの建設者、ロシア、ソビエトの建築家の功績を思いおこさせる。アルグノーフなど昔の建築家、現代のアラビヤン、地下鉄建設家ロテットなどの道路が隣りあわせて存在している。モスクワの多くの街路と大通りには、ロモノソフ、メンデレーフ、バプロフなどロシアのすぐれた学者の名前がついている。宇宙科学やロケット工学の分野での学者の功績をたたえる名称が集っている。プーシキン、トルストイ通り、チェホフ、マヤコフスキ並木路など有名な文豪をたたえたもの、有能な現代の作家・詩人などの道路名称は、わが国の文学の豊かさを想起させる。チャイコフスキー、スタニスラフスキーその他の芸術家達の名前をもつ道路名称は、ロシア芸術の巨匠の名称を不朽に残すものである。わが国特有のプロレタリアート国際主義精神と国際的革命的労働運動のすぐれた

指導者へのソビエト人民の深い尊敬の念は、クララ・ツエトキン通り、モーリス・トレズ通り、ホー・チン・ミン広場その他などの道路・広場の名称にはっきりあらわされている。ミツケビーチ通り、ロマン・ローラン広場を歩くと西欧の巨匠を思い出し、プーシキンとミツケビーチの友情とかゴーリキとロマン・ローランの出会いなどを思い出す。

1960年8月モスクワ郊外にある昔からモスクワに縁の深い5つの町が市域に編入された。その結果、モスクワには20のソビエト連邦通り、19のモスクワ通り、18の中央通り、その他800の同一名称の通りがでてきた。このことはモスクワっ子とかサービス施設とくに火災、郵便など一には、非常にこまったトラブルをひきおこした。モスクワ・ソビエト地区執行委員会付属の道路名称委員会は道路名称に関するすぐれた仕事をしてきたが、ソ連邦地理学会のモスクワ支部の活動家も委員会を支援してきた。同一名称を解消するため、共和国名、自然、地方の経済と文化の発展に尽した地方住民の労働を称賛した名称等があらわれた。郊外地をモスクワへ編入するという時には、昔の村、字などの名称が必ず残さなければならないということが決定された。首都の周辺地では多くの場合、道路名称は適当な地理学的名称によってグループ化されている。モスクワの南には、セバストポールスキーとかオデッサ通りなどがある。また北の方には北方ロシアの町、河川、海（自海通り）などに関連した名称がある。そこにはベーリング、ルサノフなど極地探検家や飛行士などの名前があり、すぐれた外国の極地探検家を敬してアムンゼン通り、ハンセン通りの名称もある。さらに南東には外コーカサス、中央アジアなどの名称がある。このような名称分類は、ソ連邦を統一するセンターとしてのモスクワの意義を強調するとともに広い都市地域の地理的方位を明瞭にするものとなっている。

このように道路名称は都市全体を知り愛す手だてとなるばかりでなく、都市の実際の各部分を知る方法でもある。このことは、また社会主義愛国主義を教えるという重要な意義をもっているのである。

モスクワ市内の道路名称の研究は前世紀に始められた。そのなかには

スネギレスの“モスクワの古跡”（1842—1845年）；マルテノーフの“モスクワ市内の道路名称とその歴史的

説明”（1878年）、測量士ペトリーニオフの“最高整備計画とモスクワの交通路”（1915年）などがある。

3. レーニングラード市内の道路名称の由来

レーニングラードは10月大革命的発祥地であり、ソ連邦の産業、科学及び文化の中心地の一つである。レーニングラードの歴史のページは、街道、大通り、広場、河岸通り、河川、橋の名称に鮮かにあらわされている。ネブスキー大通り、バシリエブスキー島、宮殿前広場、練兵場通り、オホタ噴水池、革命広場などは、他の名称ともども都市生活にしっかりと結びつき、他の建築物とか歴史的記念碑とともに、レーニングラードの顔と独特の個性になっている。都市の道路名称は一度に生まれたものではなく、その生誕には豊かな歴史がある。ペテルブルグ（現在のレーニングラード）が生まれて10年間は道路に名前がなかった。住所を必要として、土地の特徴を詳細に記述することになったが、最初の道路の公式名称は1738年ペテルブルグ建築局が制定した。ネブスキー、サドバヤなどがそれである。18世紀から19世紀にかけて道路名称はしばしば自然発生的に生まれた。都市の住民は道路に任意の名称をつけ、行政は時折これらに関与していた。この当時、工業、商業の特色ある活動、工場、家屋、土地などの所有者名にちなんだ名称があらわれた。幾つかの道路名称は、その場所の風景とか地形の特徴を反映したものであった。ペテルブルグの道路名称の本格的修正は19世紀中頃の上院政令によったものである。そのとき10本の道路に、都市名とか河川、県名のついた名称がつけられた。その後、その他の道路に帝政ロシアの高官の名前が道路名称になった。その当時は、人々に本当に人気のある人々の名前がついている道路は極くわずかであった。

道路名称での新しい段階は10月大革命的あと始まった。陰惨な過去の資本主義の都市を思い出させる道路名称を取り除こうとした革命に勝利をえた人々の願いは自然なものであった。ロマノフ王朝時代の道路名称、地主、商人、工場主などの名前のついた名称が取り除かれた。革命時代は、革命的かつ市民的なパトスにあふれた新しい名称を生んだ。蜂起広場、オブホブスキー防衛大通り、赤の通り、プロレタリア文学広場、平和通りなどはペテルブルグ労働者の英雄的革命的闘争、武力闘争の準備と実施、ソビエト政権の樹立を物語っている。1924年1月全ソ連邦ソビエト第2回大会は、ペトログ

ラードをレーニングラードに改名する決議を採択した。多くの道路とか広場には革命のリーダーとその協力者を敬する名称が付与された。栄えある解放の闘士、冬の宮殿を攻撃した人、内外の敵から若いソビエト共和国を死守した人々の名前が不朽に残されている。その他、すぐれたソビエトの学者、作家及び芸術家の名前もある。

新しい道路名称にはソビエト人民の労働の勝利と共産主義建設の集団的功績を表わしたものがある。

最近、レーニングラード市勤労者代議員ソビエト（市議会に相当する）の執行委員会（市役所）は新たに建設された多くの道路に、社会主義諸国の首都及び姉妹都市における国際共産主義及び労働運動の優れた活動家を敬する名称をつけた。

【解説】

以上は、「モスクワ市内の道路名称」、「レーニングラードの道路名称の由来」というロシア語の本からの抄訳である。（紙面の都合で、全部の訳は記載できないのは残念ですが、興味のある方は訳者に連絡して下されば完訳したものをお渡しいたします）。

日本ではなぜか二、三の都市を除いては道路は名無しの権兵衛である。横浜市内でも古い街道には往時をしのばせる名称が残されているが振り返る人がいないのはさびしい。新しく出来る道路に味気ない数字をつける現行の制度には、市民からなんらかの批判があってもよさそうだがと思う。地域にふさわしいニック・ネームを向う三軒両隣りで話し合い、さらに広く地域の代表的な道路は自治会なり町内会で、学校周辺の道路は生徒に考えさせてもいいのではないかと思う。大昔のこと、開港からの激動の100年、横浜の道路は確かに豊かな歴史をもっているにちがいない。また、これから横浜をどのような町にしてゆくつもりなのか、道路の名付親として市民の期待と願いを話すのも情として自然なことと思われるのだが。最後に、水道局の行弘公子さんのご協力を得たことを申し添えておきます。（企画調整局プロジェクト室主査 高橋敏美）